

「温めて、温めて、  
機が熟したぞ！」

しおのや さとる  
塩谷哲が、ついに挑む  
ピアノとストリングスが  
奏でるもの

ピアニストとして、作曲家として、編曲家として、非常に多くの“音楽”と関わり続ける稀有なアーティスト、塩谷哲。サルサバンド「オルケスタ・デ・ラ・ルス」のピアニストを経て、SING LIKE TALKING 佐藤竹善とのデュオ「SALT & SUGAR」、津軽三味線 上妻宏光との「AGA-SHIO」、ジャズ・ピアニスト小曾根真との共演。J-POP では作・編曲も行い、数多くの歌手たちとステージを共にしています。

そんな彼が、永く「温めて、温めて」きた新プロジェクトが立ち上がりました。それが、春日井で初披露となるピアノとストリングスのコンサート。「機が熟した」現在だからこそ可能な、塩谷哲の新境地です。

塩谷さんへの取材は3月末。震災後、初のソロ・ピアノコンサートが開催された日のことでした。今、改めて思っていること、音楽の持つ力、そして弦楽器への憧れについて、お話を伺いました。

(2011.3.27@ホテルアソシア豊橋)

—今日は塩谷さんにとって、震災後はじめてのステージだったそうですね。今、音楽について、どんなことを考えていらっしゃいますか？

生きるか死ぬか、という大変な状況の方にとって、音楽は生きる上で最後にあるものだと思います。でも今、少し落ち着いて音楽の存在意義を考えると、傷ついたりすさんでしまった心に対する、一番の栄養になるんじゃないかとも思います。その反

面、自分が音楽を奏でることで、どれだけの人と向き合えるのだろうか、という根源的な部分に考えがおよびます。

今日、実際にコンサートをやってみて、音楽の力を再認識しました。僕はこれからも音楽を続けることで生きていこう、と。お客さまからはたくさん声をかけていただき、逆に力をもらいました。

—コンサートのMCで、客席からの“気”についてお話をされてましたね。

ピアニストの場合、身体の横に人の波動みたいなものを感じています。ですから、お客さまがいない時という時では、演奏が全く違うんですよ。ソロ・コンサートでは、曲順を決めず即興演奏もするので、その影響はさらに大きいです。

—お客さまと対話しながら曲を決めていく塩谷さんの姿に、お客さまが感化され、リラックスされてましたね。

それは嬉しい！ピアノのソロ・コンサートって、発表会みたいに厳粛な感じになりがちなんです。ちゃんと聴かなきゃ、って。ピアノのいろんな側面や表現を楽しんでほしいと思っていますから、リラックスしていただけたのであれば、何よりです。

—さて、春日井で初披露となる「ピアノ with ストリングス・コンサート」。やろうと思ったきっかけは？

いつかやりたいと、ずっと思っていました。自分がプロデュースするイベントでバンドにストリングスを入れたり、曲単位でピアノと弦楽器という組み合わせはあ



共演者から注目！  
多ジャンルを駆けめぐる  
塩谷哲の音楽性

プロのアーティストに一目置かれる、ピアニスト・塩谷哲。自身のソロやグループはもちろん、共演、ジョイント、ゲスト演奏、時にはコラボレーションまで、さまざまな形で多くのアーティストと関わっています。そんな彼が共演したアーティストたちに注目してみました。技術に裏打ちされた表現力をベースに、多くを巻き込み、時には巻き込まれる。そんな包容性に満ちた自由な音楽性が、塩谷哲の魅力なのかもしれません。



●オルケスタ・デ・ラ・ルス

1984年結成の日本人サルサバンド。塩谷はパーカッショニストの大儀見元の誘いで、86～96年までピアニストとして参加。世界各地での実績が認められ、日本人の音楽家として初めて93年国連平和賞受賞。95年には米グラミー賞にノミネートされた。ティト・ブレンテ、セリア・クルス、サンタナらとも共演している。



●佐藤竹善

1995年、SING LIKE TALKINGの佐藤竹善とデュオ・ユニット「SALT & SUGAR」を結成。JazzからPopsまで、ピアノとボーカル、たった二人のアドリブ感満載のスタイルが魅力。09年には13年ぶり、ファン待望のアルバム「Interactive」とライブアルバムが同時リリースされ、大きな話題となった。



●小曾根真

2003年、札幌コンサートホールKitaraで小曾根真とのピアノデュオ・コンサートが初めて開催され、大成功をおさめる。多忙を極める二人ゆえに“幻の共演”と称されていたが、05年には大阪ブルーノートで1週間の公演、全国ツアー、モーツァルト「2台のピアノのためのコンチェルト」を共演するなど、近年特に親交が深い。



●あがつまひろみつ  
上妻宏光

津軽三味線とピアノとの融合を目指し、上妻宏光とユニット「AGA-SHIO」を結成。2人のジョイントは、上妻の熱望により、2004年リリースの上妻のアルバムに塩谷が参加したことから始まる。以来お互いの音楽観に惹かれ合い、親交を深めた。前例のないその音楽性は賞賛を受け、09年にアルバムをリリースしている。



●佐山雅弘・小原孝・国府弘子・島健・山下洋輔

2005年、佐山雅弘企画・ミュージアムザ川崎シンフォニーホールでのこけら落としとして開催されたのが、「ジャズピアノ6連弾」。07年以降、全国ツアーへと発展し、これまでに17公演を重ねる。写真は塩谷さんのブログから借用。流行のきざし? 「必殺!!6連観音!!!」

●金子飛鳥

1990年、ヴァイオリン奏者 金子飛鳥率いる「Adi」に塩谷が参加。解散後も共演を重ね、04年発表の金子のアルバム「BETWEENNESS」のレコーディングにも参加している。

●渡辺美里

渡辺と塩谷は、実は小学校の同級生。そんな縁から、レコーディング、ライブ出演などで共演を重ねる。5/8にはcobaプロデュースのコラボレーションコンサートで共演した。

●松たか子

2001年、全国11ヶ所で行われた松たか子コンサートツアーのサポートメンバーとして塩谷が同行。その後発表された松たか子初のライブDVDで、塩谷はピアノを全曲担当した。

●絢香

2008年に発売された絢香のアルバム「Sing to the Sky」で編曲と演奏を担当。同年の紅白歌合戦では「Peace Loving People ～スペシャルバージョン～」で共演した。

りましたが、コンサートとしては初めての試みです。例えば、クラシック音楽に弦楽四重奏というスタイルがありますよね。オーケストラには真似できない、異なる音楽の表現ができるから、一つのスタイルとして確立したのだと思います。そもそも僕はストリングス・アレンジが好きですし、弦楽器への憧れがあるんですよ。これまで仕事としてトライしてきた興味深いストリングスとの共演は、僕の活動の集大成になっていくと思います。その記念すべき最初のコンサートになりますね。

— 弦楽器への憧れがあるとのことですが、その理由は？

ピアノって、自分の指から弦までが遠いんですよ。指があって鍵盤があってハンマーがあって、弦がある。ハンマーが弦を叩くイメージを、指でコントロールして弾くんです。弦楽器は弓も使いますが、指が弦に直接触れるでしょ。つまり自分の身体が直接震えたり、その震えを感じたりしながら音がでるわけですから、より“音楽”と自分が近いんじゃないかな。それがちょっと羨ましいんです。究極を言えば歌ですね。歌に対する憧れもずっとあります。でも、ピアノでないと表現できない世界もある。だからうまくいってるんです(笑)。



それでもやってみるんです。弦楽器の響きにうっとりしながら、俺だってやってみるぞ！って。



— だからこそ、ピアノとストリングスで。

だって、もともとあわないんです。ピアノは平均律で弾いているし、弦楽器は純正律だから。それでもやってみるんです。弦楽器の響きにうっとりしながら、俺だってやってみるぞ！って。

— 今回、ストリングスのメンバーは塩谷さんから声をかけられたんですか？

コントラバスの井上陽介さんは、素晴らしいベーシスト。彼が弾いてくれば、僕がいなくてもいいくらい(笑)のエンターテイナーで、とても信頼しています。ストリングスのメンバーは、今回のメンバーの一人、藤堂昌彦くんを集めてもらいました。これまで数多くのストリングス奏者と一緒に演奏してきた、この人だったら、という方はたくさんいるんですが、今回はあえて若い人たちと一緒に音楽を作りたい。要するに、僕の音楽にあまり触れたことがないようなメンバーと、フレッシュな感覚で話し合いながら作っていきたくて思っています。藤堂くんは僕の『グライドの手』というアルバムに参加してもらったんですが、新しい感覚を持っているし、音楽的にも好きだったので、彼にお願いしまし

た。新しいことを始める時には、新しいメンバーと一緒に作っていきたくて。

— すべてが新しいチャレンジですね。

そうですね。でも、藤堂くんなら大丈夫、という確信があったので。核が一つあれば、次への一歩になりますから。

— 予定曲目の3曲、塩谷さんの「アース・ビート」、そしてスティンク「イングリッシュマン・イン・ニューヨーク」、ピアソラ「タンゴ・フガータ」。どれも馴染み深い曲なので、あえて弦楽器とピアノに絞ると、どんな風に奏でられるのでしょうか。この3曲から、イメージが膨らみます。

面白そうですね。そう思って選んだんです。僕も楽しみです(笑)。まだリハーサルはしていません。6月には全貌がみえてくると思います。親しみやすい曲も演奏しますが、このコンサートのために新曲を作ろうと思っています。ストリングスの若い人たちがハイハイいうような曲にしちゃおうかな(笑)なんて。あと、即興的な部分を盛り込みたいですね。みんなでアンサンブルを作り込んでもいいなあ、とか、いろんなアイデアが浮かんでいます。

— サルサバンド「オルケスタ・デ・ラ・ルス」での活動を経て多彩な音楽を生み出し続けている塩谷さん。生みの苦しみはもちろんあると思いますが、とても器用なイメージがあります。

一つ一つ本当にのめり込まないとできませんから、実は不器用かもしれない。興味がたくさんあってやっているんですが、表面だけを適当にやることのできないんです。だから、やる時はとことんハマります。そのときで、やってくるんですよ。人との出会いだったり、オファーだったり、今この人と音楽を作りたいというタイミングでまわってくるんです。デ・ラ・ルスは、当時リーダーだったパーカッショニストの大儀見元さんとセッションで出会い、強烈に感じるものがありました。たまたまピアニストを探しているタイミングだったので、誘われて入っちゃった。ヴァイオリンの金子飛鳥さんと出会ってバンドやったり、偶然の巡りあわせで小曽根真さんと出会ったり。その時に自分の興味ある音楽と見事に合致するんです。本当に出会いに恵まれていると思います。

— 向こうからやってくるんですね。

佐藤竹善さんとの出会いもそうです。上妻宏光さんは、彼が僕の音楽を気に入ってくれていて、最初はレコーディングで一曲だけの演奏でしたが、何年か経ってから、二人がキュッと接近したんです。お互いが欲している時に波が重なるんですね。戦略を練って、この人とやろう、みたいなことは一度もありません。自分で「これだ」と思わないとやらないし、できない。そういう意味では慎重かもしれません。

— 今回のピアノとストリングスのコンサートは、ようやく、という感じですか？

今だ！ということですね。だから、よくある企画ものとは全く性質が異なります。やってみようかな、というわけではなく「温めて、温めて、機が熟したぞ！」というところです。

本当に美しい世界、楽しくて踊りたくなる世界、それぞれの楽器の特性を生かした、そして演奏者の音楽性を活かすようなことを、やっていこうと思っています。その熱い思いをこれから具体化していきます。多くの方に楽しんでいただけるコンサートにしたいので、みなさん、必ず聴きにきてください！

塩谷哲 With ソルト・ストリングス コンサート 2011

7/30(土) 18:00～(開場は45分前) | 春日井市民会館

[料金] ¥4,500、ペア券¥8,500 PiPi会員¥4,000、ペア券¥7,800 

全席指定、当日¥500増、未就学児不可

[取扱い] 文化フォーラム春日井・文化情報プラザ、代金引換、チケットぴあ(Pコード135-169)、ローソンチケット(Lコード41775)

[協力] バティスリー メリ・メロ

[後援] 春日井さくらライオンズクラブ

[企画制作] (有)プラネットアーツ / (有)アースビート

“SALT”にちなんで、タイアップ企画！  
塩谷哲×塩田秀樹「美味しい、塩スイーツはいかが？」  
春日井市内の人気洋菓子店「バティスリー メリ・メロ」の大人気塩スイーツをロビーにて販売。新作も登場します！詳しくはP14へ。



Contrabass  
井上陽介



Violin  
藤堂昌彦



Violin  
徳永友美



Viola  
岡さおり



Cello  
結城貴弘

関係者の証言 ①

塩谷さんは白面の貴公子だ。



初対面の時からそう思っています。音楽もたずまいも端正で魅力的なんですね。その白面の貴公子がアバレたりミダレたりする姿も、「ジャズピアノ6連弾」のときに垣間見ました。また見せてください！

山下洋輔  
●ジャズ・ピアニスト

関係者の証言 ②

塩谷さんは変人だ。



ピアノと一体になっているその姿はとても魅力的です。完全にピアノをコントロールしていると同時に、音楽に誠実なこと…。そして何より、聴いていて、観ていて楽しくなります！

松たか子  
●女優

関係者の証言 ③

ソルトさんはユーモラスな人だ。



ソルトさんはピアノを演奏している時も、何か人を楽しませるような仕掛けや小ネタを常に考えています。それはライブトークでも同じで、一緒に出演している僕も思わず笑ってしまうような…そんな温かくユーモアたっぷりな名ピアニストです！

上妻宏光  
●三味線プレイヤー